

令和6年度第1回陸前高田市子ども・子育て会議 議事録

- 1 日時 令和6年6月27日（木）午後3時00分～午後4時15分
- 2 場所 陸前高田市コミュニティホール 2階中会議室
- 3 出席者
出席委員（10人）
石渡 博之 委員、 伊藤 昌子 委員、 加藤千代治 委員、 岸 浩子 委員、
熊谷 公子 委員、 佐々木寿子 委員、 戸羽 桂 委員、 戸羽 良一 委員、
武蔵野美和 委員、 脇坂 健吾 委員

欠席委員（5人）
大木 智春 委員、 佐々木彩花 委員、 出羽 早苗 委員、 中村 賢司 委員、
松田 秀樹 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 事務局 福祉部子ども未来課長 大友 真也
福祉部子ども未来課長補佐兼子育て支援係長 阿部 景子
福祉部子ども未来課子ども家庭係長 蒲生 恵美
福祉部保健課保健係長 遠藤 綾子
教育委員会事務局学校教育課長 吉田 亜矢子
- 6 配付資料
 - ・ 陸前高田市子ども・子育て会議委員名簿
 - ・ 配席図
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 陸前高田市子ども・子育て会議について
 - ・ 資料2 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について
 - ・ 資料3 第2期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績
 - ・ 資料4 第2期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績
 - ・ 資料5 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）について
 - ・ 資料6 陸前高田市子ども・子育て会議部会の設置について
 - ・ 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）（中間改定版）
- 7 議事録
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 挨拶

(大友課長)

皆様、大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。私は福祉部子ども未来課長の太友と申します。この4月から子ども未来課に配属になりました。どうぞよろしくお願いいたしますします。

先ほど、委嘱状を交付させていただきました。ご快諾いただきましてありがとうございます。また、伊藤会長さんをはじめ、委員の皆様におかれましては日頃から子育て支援にご尽力を賜りまして、改めて御礼を申し上げます。

昨年度は子ども・子育て会議でニーズ調査の結果についてご協議をいただいたところでございます。ニーズ調査は就学前の児童や小学生の保護者さんに対してアンケート調査をさせていただきました。今年度におきましては、令和7年度から新たに5年を一期といたします第3期子ども・子育て支援事業計画を策定するための準備を進め、ご協議いただくということでして、この後、協議していただきますが、全体会議の開催や部会での協議を想定しているところでございます。本日におきましては、第2期計画の進捗や子育て支援事業の状況、第3期計画策定の概要を事務局からご報告、ご説明差し上げまして、皆様方にご協議をいただきたく存じます。ぜひ、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたしますします。

4 委員並びに職員紹介

5 議事

(1) 陸前高田市子ども・子育て会議副会長の選出について

副会長の選出について、事務局案との声が上がり、事務局案として戸羽良一委員を提案し、承認された。

(2) 陸前高田市子ども・子育て会議について（資料1）

（事務局説明要旨）

- ・子ども・子育て会議の法的根拠、目的、今年度の会議スケジュールについて説明。

（質疑応答・意見）

- ・なし

(3) 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について（資料2）

（事務局説明要旨）

- ・0歳から11歳までの児童数は年々減少し少子化が進行しているが、未就学児の保育所等への入所率は年々上がっていて、共働き家庭の増加等により低年齢での入所も増えている。
- ・教育・保育の実施状況の説明。（高田保育所が保育所型認定こども園である。幼稚園は市内になし。認可保育所は市内全施設が国の基準を満たしている。昨年度から3歳未満児の第2子以降の保育料を無償化している。）
- ・地域子ども・子育て支援事業の概要及び昨年度実施状況の説明。
 - ・地域型保育事業…昨年、家庭的保育事業所の保育園ゆいま〜るたかたが開所。
 - ・病児・病後児保育事業…令和2年度から気仙保育所で病後児保育を実施。昨年度は延べ24人が利用。
 - ・延長保育事業…法人立保育園の4施設で実施。昨年度は1施設で延べ85人が利用。
 - ・一時預かり事業…市内全保育所・園で実施。昨年度は6施設で延べ68人が利用。今年度か

ら一般型の利用料金を利用時間によって区分し、4時間以内の場合は860円に変更。

- ・地域子育て支援拠点事業…直営3か所、民間施設1か所の計4か所で実施。子育て支援センターたかたは土曜日の子どもの遊び場として土曜日も開所。
- ・乳児家庭全戸訪問事業…母子保健法で同様の事業を実施。昨年度は58件の訪問実施。
- ・養育支援訪問事業…保健師がリスクを抱えている家庭、保護者に継続的な支援を随時実施。
- ・ファミリー・サポート・センター事業は実施していないが、類似事業として子育て応援ヘルパー派遣事業を実施。昨年度は44時間分の利用があった。
- ・子育て短期支援事業（トワイライトステイ事業、ショートステイ事業）…児童養護施設1か所と契約し、対象児童がいるときに随時実施。児童福祉法の改正により保護者の負担軽減を目的とした親子での利用も可能になったため、委託施設と調整しながら体制整備を図る。
- ・放課後児童健全育成事業…矢作小学校区を除く7小学校区の9か所で実施。
- ・妊婦健康診査…昨年度の利用実績は延べ872件。
- ・今年度の子育て関連新規事業の説明。
 - ・子どもの居場所づくり等活動支援補助…土日や長期休暇期間中などに年10回以上、子どもの居場所づくりや子育て支援に関する活動を行う団体の活動費用に対して、開催回数に応じて最大30万円を補助。
 - ・公立保育所での完全給食の実施…3歳児以上に対してもご飯を保育所で提供。
 - ・給付型奨学金及び一時金の給付制度を新設。

(質疑応答・意見)

- ・今年度新規事業として子どもの居場所づくり等活動支援補助が始まったが、申請した団体はあるか。

<回答>

今の時点でまだ申請はない。

- ・年10回以上の開催、活動する人への人件費が出ないということも申請のハードルの高さではないかと思うが、年10回以上というのは何か決まりがあつてのことか。

<回答>

定期的に居場所づくりをしていただくことが目的の一つのため、月に1、2回活動をしていただくことに対して市で支援をするということで設定した。

- ・高齢者へのタクシー助成のほかに、妊産婦に対するものもあると聞いたのだが。

<回答>

妊婦健診等に関する交通費の助成があり、公共交通機関だけではなくて、キロ計算による自家用車のガソリン代についても上限2万円で支給する。

- ・子どもの居場所づくり事業に関して、どのような団体やどのような活動をしている人たちを想定しているのかを伺いたい。人件費に対する補助がないと新規で始めるのがなかなか難しいのではないと思う。既に活動場所がある団体が始める場合には使えるというイメージはあるが、新しく居場所づくりを始める団体には少しハードルがあるのではと感じている。

<回答>

対象団体は市内に住所がある団体で、法人化していない任意の団体でも可能。町内会などの団体でもよいが、一定の規約や役員名簿等があり、経理をしっかりとできるという条件をクリアした団体を補助の対象としている。

- ・地域の公民館などを利用して実施することも可能か。

<回答>

可能である。

(4) 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）の進捗状況について（資料3、4、陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）（中間改定版））

（事務局説明要旨）

・陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）の実施状況等

- ・本計画の基本理念を「子どもたちを健やかに育むまち・陸前高田」とし、子どもの権利の尊重、子育て家庭への支援、地域全体で子育て支援の3つの基本目標を定め、事業の推進を図っている。
- ・子育て施策の展開にあたっては、子育ての時期やニーズに応じた継続的な支援により負担軽減を図ること、関係機関との連携を強化すること、支援策の周知に努めることとしている。
- ・保護者の負担軽減のため、昨年度から保育所で使用したおむつの持ち帰りをなくしている。
- ・不登校児童等の教育機会の確保のための適応支援事業を継続。
- ・発達支援・療育支援体制として、児童発達支援事業や放課後等デイサービス、保育施設での加配保育士や各学校での特別支援教育支援員の配置などにより発達段階に応じた支援を実施。
- ・要保護児童対策として、学校や児童相談所などの関係機関と連携してケース会議を開催するなど継続的な支援を実施。
- ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備として、発達段階に応じた指導や各種健診、予防接種等の実施や、妊産婦に対する伴走型相談支援と給付金の支給を行っている。
- ・悩みや不安を気軽に相談できる環境の充実を図り、LINEを活用した相談対応を実施。
- ・経済的支援では、昨年度、子育て応援クーポン券の配付対象を高校入学予定児童へ拡大。フードバンク事業や子ども食堂等は民間団体と協力しながら活動への支援を実施。
- ・ひとり親支援のうち高等職業訓練促進給付金は、対象資格の拡大や通信教育も支給対象とする制度に改めたが、昨年度の支給実績はなし。
- ・地域全体で子育て支援に関する事業として、放課後児童健全育成事業やコミュニティスクールなどを実施。子育て支援人材確保のため子育て支援員研修を実施し、昨年度は11人受講。
- ・子育てにやさしいまちの環境の整備では、昨年度から土曜日の支援センター開所や小友保育所の所庭開放により子どもの遊び場を確保した。

・資料3 第2期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績

- ・昨年度は竹駒町以外は概ね計画値通りの実績。竹駒町の2号認定が計画値を下回った要因は他町の施設に入所した児童が多かったため。合計では3号認定の0歳児が4月時点の入所が見込みよりも少なかったことで計画値下回ったが、その他は計画通りの状況。

・資料4 第2期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績

- ・多くの事業で計画値を下回り、延長保育や一時預かりは例年に比べても利用が少なかった。
- ・乳児家庭全戸訪問事業も出生数が少なかったことで計画値の約半分の実績だが、対象者の家庭は全て訪問している。

（質疑応答・意見）

- ・子どもたちの出生数が減っているため計画値よりも大幅に減ったとあるが、待っているだけではなくて、例えば民間との協力による需要の掘り起こしを行うことなどの考えがあるかをお聞かせ願いたい。フードバンク事業や子ども食堂などは民間企業と一緒に行うことによって、知っている人たちと対面することができる環境が生まれ、それなら行きたい、あの人に会いに行きたいという需要が見える化していると思う。市で計画すると皆さんに伝えなければいけない

というのが当然出てくると思うが、民間の人たちと一緒にうまく伝えていくという考えはどうか。

<回答>

地域子ども子育て支援事業の実績について、少子化の関係で実績値が少なかったと説明したのは乳児家庭全戸訪問事業に絞ったもので、計画を策定した時点で出生数を増やしていきたいという思いもあったが、実際には子どもの人数が少なかったもの。他の事業に関しては、ニーズ調査の結果を計画策定の参考にさせていただくが、ニーズ調査での希望に対して実際に利用するのが案外少ないのがここ数年の傾向かと思っている。ニーズ調査の項目は国である程度定めているものだが、回答する方が自分事として事業を使いたいと思っているか、こういう事業があればいいなという感じで回答されているかで実際の利用との差が出てきてしまうのではないかと思っている。いずれ、計画値を定めて子ども子育て支援事業を利用することによって子育て世帯の負担の軽減や、子ども自身の生活の質の向上や幸せにつながるので、我々としても周知に努めながらやらなければいけないと思っている。民間との協力についても実際にそのような取組もあるので、引き続き今のご意見を参考にさせていただきながら、どのようなことができるのかを探りながらやっていかなければいけないと思っている。

- ・少子化だから仕方ないと言う以前に、そうならないように産み育てやすいまちづくりのために計画があるのだから、そこに市民一人一人が何ができるのかということを明らかにできるようなシステムがあれば一番良いのではと思っている。力を持っている方がたくさんいらっしゃるので、横の連絡網や部会などで密にできるような制度になっていけばいいと思っている。
- ・思っていることを言葉に出していただいたので、確かになと思いながら聞いていた。私も子どもが3人いて、いろいろな事業があることを改めて確認したが、実際に子育てで忙しい時期にこの事業があることはほぼ知らなかった。今これを知れば、ああそうなのかと納得はするが、コマーシャルの仕方というか、陸前高田市民に限った話なのかなと思った。例えば、陸前高田市を出て外の地域で過ごしている方に高田にはこのような事業がある、もし高田で子どもを育てることができるのであれば、市としても就職先の斡旋とかをしますとか、子どもたちをこのような事業でサポートしますというのがあれば、少なくとも今よりはいいのではと思う。ここまでせっかくやっているのであれば、今はいろいろな媒体で全世界に発信できる方法があるので、陸前高田市に縁のある人たちに知ってもらえる機会があればいいのかなと思う。事業があっても子どもがいなければ、ただの施策に終わってしまうのではないかと感じた。

<回答>

おっしゃられていることはその通りだと思う。やはり、使いたい方に事業があるということを知っていただかないといけないと思っている。例えば一時預かり事業は保育所の申し込み時点で案内はしているが年に1回程度なので、ホームページなども活用して発信していきたい。外の方に対しては移住関連のサイトに事業を載せてはいるが、なかなか届いていない実態もあるかと思うので、そのような部分も気に留めながら取り組んでまいりたい。

- ・ファミリーサポートセンター事業が計画では0となっているのはどういう状況なのかをお伺いしたい。類似事業は実施しているとのことだが、この事業も大事だと思う。私自身も0歳児の子どもがいて、地域の中でいつでも頼ってねと言ってくれる温かい方々が陸前高田にはたくさんいらっしゃるが、何を頼ったらいいのかわからなかったり、地域の方々も何をお手伝いしたらいいのかわからなくてなかなか歩み寄れないということもある思っていて、この事業が機能していくともっと地域の中で支え合ったりすることができるのではと思うのだが、どういう状況なのかをお聞きしたい。

<回答>

ファミリーサポートセンターは、子どもを預かってほしい人と子どもの面倒が見たい人とが会員組織を作って預かり等をお願いするというものだが、その事業にするためには会員の数の条件があって、そこがクリアできていない部分と考えている。預かりたい人の数が確保できれば事業を始められると思うが、そこができないために事業を行えていないので、それに代わる事業としてシルバー人材センターに子育て応援ヘルパー事業を委託して、1対1のやり取りというところで事業をお願いしている。ヘルパーについては利用登録をしていたら年間10時間分の利用が無料になるので、急な対応は難しいかもしれないが、最初から予定が立っていることであれば十分使えると思うので、こちらの方もぜひご利用いただければと思っている。

- ・募集している上で人が集まっていないのか、どういう状況なのか。

<回答>

ヘルパー事業でも利用が年間40件程度でありあまり使われてはいないので、この状況ではファミリーサポートセンター事業を始められないということで事業を実施していない。

- ・市の子育て応援ヘルパー事業にシルバーの子育て班で対応している。5年度の実施状況も報告されたが、こういう素晴らしい支援があるのに利用する家庭は少ない。知っている家庭は利用してくださるが、ヘルパー券を10枚使いきるとシルバーの正規の対応になる。1時間千円以上の時給よりも高いお金を払ってでも子どもを預けたいというのはかなり厳しい現状ではないのかと思う。ヘルパー事業をたくさん利用したい方への対応が難しいという話が以前にもあった。ちょっと何とかしたいという時に対応できればと思う。

(5) 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）について（資料5）

（事務局説明要旨）

- ・市町村は5年を1期として教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保や業務の円滑な実施に関する計画を定めると子ども・子育て支援法に規定されている。第2期計画が今年度で終了することから、令和7年度から11年度までの5年間を計画期間とする第3期計画を策定する。
- ・第3期計画は第2期計画と同様に次世代育成支援行動計画、子どもの貧困対策推進計画に関する内容に加え、母子保健計画を含めたものにするを考えている。これまで母子保健計画は陸前高田市健康づくり計画に含まれていたが、内容が子ども・子育て支援事業と重なる部分が多いため、この計画に含めることで妊娠期から18歳までの子どもや子育て家庭を対象にした一体的な計画になる。また、放課後児童対策に関する内容や、国の「こども大綱」、「こども未来戦略」を勘案した内容も入れ込むことを予定している。
- ・計画は、昨年度実施したニーズ調査、子ども・子育て会議での審議、市民や関係機関からの意見聴取によって策定を進める。
- ・第2期計画の構成を基本に、児童福祉法の改正等を反映した内容を付け加える予定。

（質疑応答・意見）

- ・なし

(6) 陸前高田市子ども・子育て会議部会の設置について（資料6）

（事務局説明要旨）

- ・第3期計画の策定にあたり、内容の審議をより活発に詳細に行うことを目的として、陸前高田市子ども・子育て会議条例第7条の規定により部会を設置することを提案する。

- ・乳幼児支援部会と児童生徒地域支援部会の２つの部会を設け、乳幼児支援部会では主に未就学児や母子保健に関する分野を、児童生徒地域支援部会では主に小学生以上や地域における子育て支援に関する分野について審議することを想定。
- ・事務局で計画案を作成し、７月から１１月頃に２、３回程度各部会で所掌事項の内容を審議した上で１２月中に計画案をまとめて全体会議で審議し、パブリックコメントを経て、来年３月の全体会議で最終計画案を諮る予定。
- ・陸前高田市子ども・子育て会議条例施行規則第２条において、部会は会長が指名する委員をもって組織すると規定。部会長は部会に属する委員のうちから会長が指名すると規定。

（部会の設置について反対意見がないため部会の設置を決定し、会長が各部会の委員及び各部会長を指名した。）

(7) その他

- ・７月から部会が始まるが、どのように進めるのでしょうか。

<回答>

各部会長と日程を調整しながら、その都度各部会を開催していく形で進めたいと思っている。

6 その他

なし。

7 閉会